

科目目標: 成人期の特徴と、健康の保持・増進に向けての看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 成人期にある人の身体的、精神的、社会的特徴を理解できる。	6 (3回)	1) 発達段階・発達課題 (1) 生涯発達の視点からみた成人期の位置づけと区分 (2) 成人期の発達課題と関連する理論	
2 成人の健康の動向を理解できる。	4 (2回)	2) 身体的・精神的・社会的変化の特徴 (1) 成人各期の特徴と発達課題 (2) 成人の役割	
3 成人期に見られる健康問題とその予防を理解できる。	10 (5回)	1) 成人の健康の状況 (1) 生と死の動向 (2) 成人各期の健康問題	
		1) 成人の生活の特徴 (1) 家族形態と機能 (2) 社会状況の変化 (3) 成人期における生活の特徴	
		2) 生活習慣に関連する健康問題 (1) 生活習慣病の発症因子 (2) 生活習慣病の予防	
		3) 健康の保持・増進、疾病の予防 (1) 健康増進・生活習慣病対策	
		4) 職業に関連する健康問題 (1) 職業性疾病および業務上疾病 (2) 健康増進のための産業保健活動	
		5) 生活ストレスに関連する健康問題 (1) 生活ストレスと健康問題 (2) ストレス関連疾患の予防と対応 (3) ストレス-コーピング理論	
4 成人の特性や能力に応じたアプローチの基本を理解できる。	8 (4回)	1) 成人に対する教育的かかわり (1) アドヒアランス (2) 自己効力 (3) エンパワースメント	
		2) 慢性病領域における実践と教育 (1) 病みの軌跡理論	
		3) 急性期領域における実践 (1) 危機理論	
	試験2H		

科目名:セルフマネジメントに向けての看護

単位時間:1単位(30時間) 1学年

科目目標: 慢性疾患をもつ成人の特徴をふまえ、健康上の課題を解決するためのセルフマネジメントに向けての看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 慢性疾患をもつ人の特徴を踏まえ、セルフマネジメント支援を理解できる。	4 (2回)	1) 慢性疾患をもつ人の特徴 2) セルフマネジメント支援 (1) サインマネジメント(セルフモニタリング) (2) 症状マネジメント (3) ストレスマネジメント 3) セルフケア行動継続に向けての看護 (1) 行動変容ステージ (2) ヘルスビリーフ、自己効力 (3) エンパワメントアプローチ	
2 セルフマネジメント及び社会生活継続に向けての看護を理解できる。	8 (4回)	1) 糖代謝異常をもつ人のセルフマネジメントを目指す看護 (1) 糖尿病をもつ人のセルフマネジメント ①食事療法 ②運動療法 ③薬物療法 ④フットケア ⑤自己血糖測定 ⑥インスリン自己注射 ⑦シックデイとその対応 (2) 家族への看護 (3) 社会資源の活用	
	6 (3回)	2) 腎機能障害をもつ人のセルフマネジメントを目指す看護 (1) 慢性腎不全をもつ人のセルフマネジメント ①病期に応じたセルフマネジメント ②血液透析(導入期・維持期) ③腹膜透析(導入期・維持期) ④腎移植 (2) 家族への看護 (3) 社会資源の活用	
	4 (2回)	3) 肝機能障害をもつ人のセルフマネジメントを目指す看護 (1) 肝硬変をもつ人のセルフマネジメント ①代償期 ②非代償期 (2) 家族への看護 (3) 社会資源の活用	
	6 (3回)	4) 呼吸機能障害をもつ人のセルフマネジメントを目指す看護 (1) 慢性呼吸不全をもつ人のセルフマネジメント ①呼吸リハビリテーション ②感染予防 ③薬物療法 ④酸素療法 (2) 家族への看護 (3) 社会資源の活用	
	試験2H		

科目目標: 健康の危機状況にある成人の特徴をふまえ、その状態に応じた看護について理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
<p>1 さまざまな健康危機状況と看護の特徴を理解できる。</p> <p>2 手術療法などの侵襲的治療を受ける人の健康危機状況と看護の特徴を理解できる。</p> <p>3 生命の危機状態で治療を必要としている人の看護の特徴を理解できる。</p>	<p>2 (1回)</p> <p>18 (9回)</p> <p>8 (4回)</p> <p>試験2H</p>	<p>1) 健康の危機状況 (1) 健康の破綻 ①急性期疾患 ②がん疾患 (2) 健康の危機とは ①成人における健康危機状態</p> <p>1) 侵襲的治療(手術療法)を受ける人の看護 (1) 手術侵襲と生体反応 (2) 手術方法と看護(開腹術、内視鏡術) (3) 手術前の看護 ①術前オリエンテーション ②術前訪問 ③インフォームドコンセントと看護師の役割 ④術前検査と術後合併症のリスクアセスメント ⑤手術前日の看護 ⑥手術当日の看護 (4) 手術中の看護 ①手術室看護師の役割 ②安全管理 (5) 手術後の看護 ①手術直後の観察とアセスメント ②疼痛の緩和と不快症状の緩和 ③ドレーン類の管理と創傷管理 (低圧持続吸引の管理含む) (6) 回復を促進する看護 ①術後合併症の予防 ②術後の精神的支援 ③ボディイメージ、自己概念の変容への支援 (7) 日常生活の自立にむけての看護 ①退院指導</p> <p>1) 生命の危機状態にある人の看護 (1) 救命・集中治療を必要とする人の看護 ①集中治療室の特徴 ②集中治療を受ける人への看護 ③緊急性と重症度のアセスメント (2) 循環不全にある人の看護 ①急性心筋梗塞を発症した人の看護 ・機能障害のアセスメント ・合併症予防 ・心臓リハビリテーション</p>	

科目名:セルフケア再獲得に向けての看護

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 障害を持ちながら生活する成人の特徴をふまえ、セルフケアの再獲得に向けての看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 障害を持つ人の特徴とセルフケア再獲得の概念を理解できる。	4 (2回)	1) セルフケアの概念 2) セルフケアの再獲得 (1) 二次障害の予防と早期リハビリテーション (2) 残存機能の活用、代償機能の獲得 3) 障害受容への援助 (1) 障害の受容過程 (2) 価値の転換 (3) アドボカシー (4) 家族への看護 4) 社会参加への支援	
2 セルフケアの再獲得の看護の実際を理解できる。	6 (3回)	1) 脳・神経が障害された人のセルフケア再獲得への看護 (1) 脳出血急性期の看護 ①再出血、合併症のアセスメントと予防 ②脳ドレーンの管理 ③二次障害の予防と早期リハビリテーション (2) 残存機能の活用、代償機能の獲得 (3) 社会参加への支援 (4) 家族への看護	<演習> 瞳孔の観察
	6 (3回)	2) 脊髄が損傷された人のセルフケア再獲得への看護 (1) 脊髄損傷部位と障害 (2) 脊髄ショック期の看護 (3) 二次障害・合併症の予防に向けた看護 (4) 残存機能の活用、代償機能の獲得 (5) ボディイメージの変容への援助 (6) 社会参加への支援 (7) 家族への看護	
	6 (3回)	3) 排泄経路が変更された人のセルフケア再獲得への看護 (1) 人工肛門造設前の看護 ①ストーマサイトマーキング ②心理的援助 (2) 人工肛門造設後の看護 ①二次障害の予防 ②ストーマリハビリテーション (3) ボディイメージの変容への援助 (4) セクシュアリティへの看護 (5) 社会参加への支援 (6) 家族への看護	
	6 (3回)	4) セクシュアリティに関わるセルフケア再獲得への看護 (1) 集学的治療時の看護 (2) ボディイメージの変容への援助 (3) セクシュアリティへの看護 (4) 社会参加への支援 (5) 家族への看護	
	試験2H		

科目名:緩和ケアを必要とする人の看護

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 苦痛の緩和と、その個人がもつ力を支える援助と望みを実現するための看護を理解できる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 人間の生と死について考え、終末期医療を理解できる。	4 (2回)	1) 人の生命、死と医療 (1) 成人期にある人の死 (2) 死の受容過程 2) 死の準備教育 3) 終末期医療に関する概念 (1) ターミナルケア (2) サポートケア (3) エンドオブライフケア 4) 緩和ケア (1) 緩和ケアの歴史 (2) 緩和ケアの場 (3) チーム医療 (4) 看護師の役割 (5) 日本における緩和ケアの現状と課題	
2 がんに対する治療とその看護を理解できる。	6 (3回)	1) がん患者の抱える苦痛 (1) 諸症状による苦痛 (2) 再発や経過の不確かさによる苦痛 (3) 社会的偏見や制約による苦痛 2) がん患者の治療と看護 (1) 化学療法 (2) 放射線療法 (3) 造血幹細胞移植	
3 緩和ケアが必要な人の看護の実際を理解できる。	10 (5回)	1) 緩和ケアを必要とする対象の理解 2) 全人的苦痛(トータルペイン) 3) 身体的苦痛とその緩和 (1) 症状マネジメント (2) 疾病、治療処置に伴う合併症や二次障害の予防 (3) 日常生活への援助 4) 精神的苦痛とその緩和 (1) 援助的コミュニケーション(傾聴・共感・受容) 5) 社会的苦痛とその緩和 6) スピリチュアルペインとその緩和 (1) 希望を支える援助 7) 代替・補完療法	<校内実習> (2H) 「がん性疼痛緩和(リラクゼーション、マッサージ他)」
4 終末期看護における倫理を理解できる。	4 (2回)	1) 死をめぐる倫理的課題 (1) アドバンス・ケア・プランニング (2) 鎮静(セデーション)	
5 家族への看護を理解できる。	2 (1回)	1) 家族が直面する危機 (1) 予期悲嘆 (2) グリーフケア	
6 危篤・臨終・死亡時の看護を理解できる	2 (1回)	1) 危篤時の看護 2) 臨終時の看護 3) 死後の看護 (1) 遺体の変化 (2) エンゼルケア	
	試験2H		

科目名:成人の看護過程

単位時間:1単位(30時間) 2学年

科目目標: 成人期の特徴や健康上の課題をふまえた看護過程の展開ができる。

学 習 目 標	時間数 (回数)	学 習 内 容	備 考
1 セルフマネジメントが必要な対象の看護過程の展開ができる。	16 (8回)	1) セルフマネジメントが必要な人の看護過程 (1) アセスメントの視点 ①現病歴、既往歴、生活習慣、家族状況 ②ヘルスビリーフ、現在の病状の捉え方 ③レディネス、強み (2) 看護診断の確定 (3) 看護介入 ①セルフモニタリング ②症状マネジメント ③ストレスマネジメント ④行動変容に向けての計画 ⑤患者教育 ・指導案作成	<演習> (14H) <校内実習> (2H) 「患者指導」
2 周手術期にある人の看護過程を理解できる。	12 (6回)	1) 周手術期にある人の看護過程 (1) クリニカルパスの活用方法 ①アウトカム ②介入計画 ③バリエーション (2) クリニカルパスの作成 ①手術前・中・後のアウトカム ②手術後の介入計画 (3) クリニカルパスにおける看護介入 ①術後の生体侵襲および合併症のアセスメント ②合併症予防に向けた早期離床 ③各種ルートの管理 ④I-SBAR	<校内実習> (4H) 「術後の観察」 「早期離床」 「ドレーン管理」
試験2H			